

ズームアップ 経済統計

ネガティブ・スクリーニングの少ない日本のESG投資

(G S I A “The Global Sustainable Investment Review 2018”)

大和総研 金融調査部SDGsコンサルティング室長
主任研究員

太田 珠美



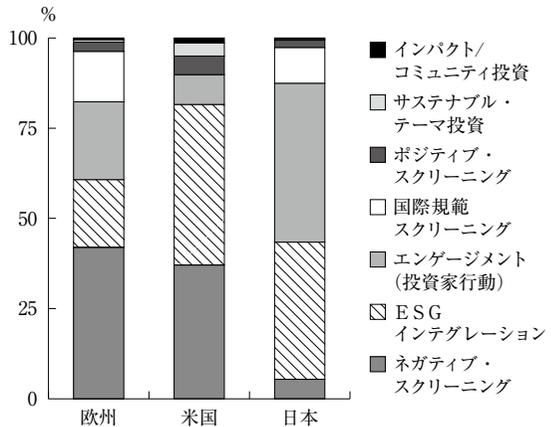
心に、ESG投資に取り組む動きが広がった。

日本のESG投資残高は2017年度末時点で232兆円であり、15年度末時点の56兆円から飛躍的に拡大している(いずれも日本サステナブル投資フォーラムによる機関投資家向けアンケート調査結果)。この背景として、まず15年にGPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)が国連の責任投資原則(PRI=Principles for Responsible Investment)に署名したことが挙げられる。PRIは投資プロセスにESG要素を取り入れることを推奨するものだ。日本最大のアセットオーナーであるGPIFがPRIに署名したことで、運用の委託を受ける運用会社を中

心に、ESG投資といっても、一言にESG投資といっても、

その手法はさまざまである。よく知られるのは、武器やたばこ、アルコール製造といった特定の業界・企業を投資対象から除外するネガティブ・スクリーニングだろう。近年では、温室効果ガスの排出量が多い石炭火力を投資対象から除外する動きも増えている。

〔図表〕 ESG投資残高に占める投資手法の比率(地域別)



(注) 欧州および米国は17年度末時点、日本は17年度末時点。
(出所) Global Sustainable Investment Alliance “The Global Sustainable Investment Review 2018” から大和総研作成。

一般的に投資で考慮される財務情報(企業から公表される財務諸表や業績予想など)に加え、ESG情報も考慮するESGインテグレーション、環境破壊や人権侵害などに関する国際的な規範を満たしていない企業を投資対象から除外する国際規範スクリーニング、ESGで優れた取組みをしている企業を投資対象とするポジティブ・スクリーニング、投資先企業にESGへの取組みを促すエンゲージメント(投資家行動)、社会や環境に関するテーマについて取り組む企業・プロジェクトなどに投資するサステナブル・テーマ投資などがある。

投資手法別の残高比率を見ると、日本は欧州や米国と比べて、ネガティブ・スクリーニングが低く、エンゲージメントが高い(図表)。GPIFはユニバーサルオーナーとして、ネガティブ・スクリーニングや投資撤退(ダイベストメント)を行わず、エンゲージメントを通じてESGへの取組みを促していく方針を打ち出している。日本でエンゲージメントが多いのは、こうしたGPIFの方針も影響している可能性がある。